

## 母親の養育態度と醜形懸念の関連<sup>1,2</sup> —拒絶過敏性を媒介変数として—

小林真綾 武蔵野大学・矢澤美香子 武蔵野大学

### The Relationship between Maternal Parenting Attitudes and Dysmorphic Concern: Understanding the Role of Rejection Sensitivity as a Mediator

Maaya KOBAYASHI (Musashino University), Mikako YAZAWA (Musashino University)

Evidence suggests that maternal parenting attitudes experienced during childhood may lead to the development of body dysmorphic disorder (BDD), although its mechanism remains uncertain. This study aimed to examine whether maternal parenting attitudes such as care and overprotection were related to dysmorphic concern and whether rejection sensitivity mediated these relationships. A total of 428 Japanese university students took part in a web-based survey. Although maternal care was not significantly associated with dysmorphic concern, a significant positive association was found between maternal overprotection and dysmorphic concern. Furthermore, both maternal care and maternal overprotection were related to dysmorphic concern via rejection sensitivity. Future studies should examine whether these findings can be replicated among patients with BDD.

Keywords: body dysmorphic disorder, dysmorphic concern, rejection sensitivity, mother-child relationship, parenting attitude

醜形恐怖症(Body Dysmorphic Disorder: BDD)とは、実在しない、または些細な外見上の欠点に対するとらわれと強迫行為を特徴とする精神疾患である(American Psychiatric Association, 2013)。BDD は日常生活に著しい苦痛や障害を引き起こし、比較的高率に出現するにもかかわらず(Phillips, 2017), その発症と維持のメカニズムに関する研究知見は限定的である。

BDD の発症には人生早期における親の養育態度が関与している可能性がある。親の養育態度と精神疾患の関係を検証した研究(Kidd et al., 2022)によれば、養護(care)が不十分で過保護(overprotection)な「愛情欠損的統制(affectionless control)」を特徴とする養育を小児期に経験すると、その後に精神疾患を発症するリスクが高くなることが示唆されている。BDD の発症について、鍋田(2011)は自身の臨床経験から、

父子関係よりも母子関係の方が重要であると述べている。これらから、養護的な母親の養育態度は BDD 発症の保護要因となり得る一方で、過保護な母親の養育態度は BDD 発症の危険要因となり得ることが予測される。

人生早期において主たる養育者である母親から「愛されていない」、「拒絶されている」、と感じさせるような拒絶体験は、他者からの拒絶に過敏になる傾向をもたらす。これは、拒絶過敏性と呼ばれ、他者からの拒絶を不安とともに予期し、素早く知覚し、過剰に反応する傾向と定義されている(Downey & Feldman, 1996)。拒絶過敏性は両親を含む重要な他者からの拒絶体験に起因し、親の養育態度が拒否的あるいは支配的であるほど高いとされている(Rowe et al., 2015)。

BDD 患者は他者からの拒絶に敏感である

1 本研究の一部は第 1 筆者が令和 4 年度に武蔵野大学大学院人間社会研究科に提出した修士論文を加筆修正したもので、日本パーソナリティ心理学会第 31 回大会(2022)にてポスター発表された。

2 Corresponding author: Maaya KOBAYASHI, Graduate School of Human and Social Sciences, Musashino University, 3-3-3 Ariake, Koto-ku, Tokyo 135-8181, Japan.

E-mail: maaya.kobayashi12[at]gmail.com

(Gao et al., 2017)。自分の容姿を理由に、他者から拒絶されることを恐れ、症状を助長させるような社会的回避や強迫行動を行う傾向がみられる(Kelly et al., 2014)。したがって、小児期における母親の養育態度は、拒絶過敏性の程度に影響し、BDD 症状に寄与することが予測されるが、このような仮説を検証した研究は現時点では存在しない。

なお、BDD 症状については、臨床群と健常群との間に量的な連続性が仮定されている(Bala et al., 2021)。臨床群と重症度は異なるものの、健常群にも見られる「外見上の欠点に対する強い心配やとらわれ、外見上の欠点の過剰な確認やカモフラージュ、社会的回避や再保証希求」は醜形懸念と定義されている(Littleton et al., 2005, p. 229)。これらは BDD 患者の代表的な症状であるが、BDD の診断基準に満たないレベルで外見に悩んでいる者は多い(Lambrou et al., 2012)。BDD は一般的な外見の悩みの連続性上にある現象で、BDD 患者と健常者は症状の重症度によって異なると考えられている(Philips, 2017)。この連続性を前提に、健常群の醜形懸念に関する研究知見を BDD 臨床群に応用するためのアナログ研究が国内外で行われている(e.g., 田中他, 2013)。そこで、本研究では、母親の養育態度は醜形懸念に関連し、その関連を拒絶過敏性が媒介するかを検討することを目的とする。

## 方 法

### 調査対象者と調査時期

調査対象者は大学生 428 名(男性 161 名, 女性 263 名, 回答しない 4 名,  $M_{age} = 19.89, SD_{age} = 1.28, age\ range = 18-31$ )であった。2022 年 6 月~7 月に大学の講義時間を利用して Google フォームを用いた無記名自記式質問紙調査を Web 上で実施した。本研究は、武蔵野大学人間科学部倫理委員会の承認を得て実行された(承認番号: 2022-03-01)。

### 調査材料

(1) デモグラフィック・データ 性別と年齢のみ回答を求めた。

(2) 日本語版 Body Image Concern Inventory (J-BICI; 田中他, 2011) 醜形懸念を測定する尺度である。「容姿の問題に対する安全確保行

動」, 「容姿の問題からの回避行動」, 「容姿への否定的認知」の 3 下位尺度, 全 19 項目で構成される。各項目の回答には, 1 点(まったくない)~5 点(いつもそうだ)の 5 件法を採用した。本研究では, J-BICI の合計得点を目的変数として使用した( $\omega = .92$ )。

(3) 日本語版 Interpersonal Sensitivity Measure (J-IPSM; 巢山他, 2014) 拒絶過敏性を測定する尺度である。「関係破綻の不安」, 「他者を傷つける不安による非主張性」, 「批判されることへの懸念」, 「社会的自己像と真の自己像の不一致」, 「他者評価追従」の 5 下位尺度, 全 27 項目から構成される。1 点(全然当てはまらない)~4 点(とても当てはまる)の 4 件法で回答を求めた。本研究では, J-IPSM の合計得点を媒介変数として使用した( $\omega = .91$ )。

(4) Parental Bonding Instrument 日本語版 (PBI-J; Kitamura et al., 1993a, 1993b)

16 歳までの母親の養育態度を測定するために採用した尺度である。「養護」と「過保護」の 2 下位尺度, 全 25 項目から構成される。本研究では調査対象者の多様な家庭環境に配慮し<sup>3</sup>, 母親または母親に代わる養育者の養育態度について 0 点(全く該当しない)~3 点(該当する)の 4 件法で回答を依頼した。本研究では, 養護下位尺度の合計得点( $\omega = .91$ )と過保護下位尺度得点の合計得点( $\omega = .85$ )をそれぞれ説明変数として使用した。

## 結 果

欠損値や多変量外れ値を示した者を除く 379 名(男性 139 名, 女性 237 名, 回答しない 3 名,  $M_{age} = 19.93, SD_{age} = 1.30$ )を分析対象者とした。母親の養護と過保護の得点分布に $\pm 3.29$ 以上の尖度または歪度の標準得点が検出され, 正規分布に近づけるために平方根変換を適用した(Tabachnick & Fidell, 2012)。なお, すべての変数間で有意な Pearson の積率相関係数が得られた( $r_s = -.59-.47, ps < .01$ )。

母親の養護( $M = 28.61, SD = 6.12$ )と過保護( $M = 10.76, SD = 6.26$ )を説明変数, 拒絶過敏性を媒介変数( $M = 78.83, SD = 12.21$ ), 醜形懸念を目的変数( $M = 56.05, SD = 14.54$ )とする媒介分析を PROCESS macro version 4.1 for SPSS(Hayes, 2022b)を用いて実施した。

最初に, 媒介変数投入前の結果を Table 1 に

**Table 1** 醜形懸念に対する母親の養育態度の総合効果

変数	B	SE <sub>B</sub>	β	t	p
養護 <sup>a</sup>	-1.05 [-2.68, 0.58]	0.83	-.08	-1.27	.21
過保護 <sup>a</sup>	2.22 [0.34, 4.09]	0.95	.14	2.32	.02

$R^2 = .04$ .  $F(2, 376) = 7.60$ ,  $p < .001$ .

注 []内は非標準化回帰係数(B)の95%信頼区間(CI)を表している。SE = 標準誤差; β = 標準化回帰係数。

<sup>a</sup>変数変換後の分析結果を反映している。

示す。母親の養護と醜形懸念に有意な関連は認められなかったものの、母親の過保護と醜形懸念に有意な正の関連が認められた。

次に、媒介変数投入後の結果を Figure 1 に示す。母親の養護と過保護は、どちらも拒絶過敏性と有意に関連していた。また、拒絶過敏性は醜形懸念と有意な正の関連を示した。なお、母親の養護と醜形懸念ならびに母親の過保護と醜形懸念の間に有意な関連は見られなかった。

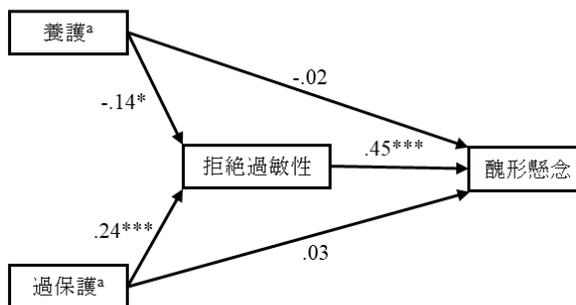
拒絶過敏性を媒介した醜形懸念に対する母親の養育態度の間接効果を検討するために、95%パーセントイルブートストラップ信頼区間(標本数:5,000)を算出した。母親の養護(β = -.06, 95% Boot CI [-.12, -.01])と過保護(β = .11, 95% Boot CI [.06, .17])の信頼区間に0は含まれておらず、有意な間接効果が確認された。

### 考察

本研究では、養護的な母親の養育態度と過保護な母親の養育態度それぞれ醜形懸念に関連し、それらの関連を拒絶過敏性が媒介するかを検討した。その結果、拒絶過敏性を統制した上では、母親の養育態度と醜形懸念に直接的な関連は見られなかったが、拒絶過敏性を介した間接的な関連が見られた。したがって、養護的な母親の養育態度は、拒絶過敏性を下げることで、醜形懸念を低減させる一方で、過保護な母親の養育態度は、拒絶過敏性を高めることで、醜形懸念を増大させる可能性が示唆された。

本研究の限界として、大学生を対象とした調査結果がBDD臨床群全体に適用できるとは限らないことが挙げられる。しかし、BDDが好発する青年期(Bjornsson et al., 2013)の大学生を対象に醜形懸念の生起メカニズムを検証する

**Figure 1** 醜形懸念に対する母親の養育態度の直接効果と拒絶過敏性を介した間接効果



注 図中の数値は標準化回帰係数を表している。

<sup>a</sup>変数変換後の分析結果を反映している。

\* $p > .05$ . \*\*\* $p > .001$ .

ことで、健常群におけるBDDの発症予防を考える一助となり得ることが期待される。今後は、BDD臨床群に対して同様の調査を行い、本研究の結果が再現されるかを検討したい。

### 注

- 令和2年国勢調査(総務省統計局, 2021)において、15歳未満の男児または女児がいる世帯のうち、「ひとり親と子どもから成る世帯」が8.7%、「その他の世帯」が12.2%であることをもとに配慮した。
- 従来、説明変数と目的変数の間に有意な関連(i.e., 総合効果)が認められた上で、媒介分析を行うのが一般的であった(Baron & Kenny, 1986)。しかし、双方の関連が有意でない場合でも、有意な間接効果が検出されることがあるため、間接効果の検定を実施することが今では推奨されている(Hayes, 2022a)。

### 利益相反

本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

### 引用文献

American Psychiatric Association. (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders* (5th ed.). Arlington, VA: Author.

Bala, M., Quinn, R., Jassi, A., Monzani, B., & Krebs, G. (2021). Are body dysmorphic symptoms dimensional or categorical in nature? A taxometric investigation in adolescents. *Psychiatry Research*, 305, 114201.

Baron, R. M., & Kenny, D. A. (1986). The moderator–mediator variable distinction in social psychological research: Conceptual, strategic, and statistical considerations. *Journal of*

- Personality and Social Psychology*, 51, 1173-1182.
- Bjornsson, A. S., Didie, E. R., Grant, J. E., Menard, W., Stalker, E., & Phillips, K. A. (2013). Age at onset and clinical correlates in body dysmorphic disorder. *Comprehensive Psychiatry*, 54, 893-903.
- Downey, G., & Feldman, S. I. (1996). Implications of rejection sensitivity for intimate relationships. *Journal of Personality and Social Psychology*, 70, 1327-1343.
- Gao, S., Assink, M., Cipriani, A., & Lin, K. (2017). Associations between rejection sensitivity and mental health outcomes: A meta-analytic review. *Clinical Psychology Review*, 57, 59-74.
- Hayes, A. F. (2022a). *Introduction to Mediation, Moderation, and Conditional Process Analysis: A Regression-based Approach* (3<sup>rd</sup> ed.). New York: Guilford Press.
- Hayes, A. F. (2022b). *PROCESS v4.1* [Computer Software]. <https://www.processmacro.org/download.html>
- Kelly, M. M., Didie, E. R., & Phillips, K. A. (2014). Personal and appearance-based rejection sensitivity in body dysmorphic disorder. *Body Image*, 11, 260-265.
- Kidd, K. N., Prasad, D., Cunningham, J. E., de Azevedo Cardoso, T., & Frey, B. N. (2022). The relationship between parental bonding and mood, anxiety and related disorders in adulthood: A systematic review and meta-analysis. *Journal of Affective Disorders*, 307, 221-236.
- Kitamura, T., & Suzuki, T. (1993a). A validation study of the Parental Bonding Instrument in a Japanese population. *Japanese Journal of Psychiatry and Neurology*, 47, 29-36.
- Kitamura, T., & Suzuki, T. (1993b). Perceived rearing attitudes and psychiatric morbidity among Japanese adolescents. *Japanese Journal of Psychiatry and Neurology*, 47, 531-535.
- Lambrou, C., Veale, D., & Wilson, G. (2012). Appearance concerns comparisons among persons with body dysmorphic disorder and nonclinical controls with and without aesthetic training. *Body Image*, 9, 86-92.
- Littleton, H. L., Axsom, D., & Pury, C. L. (2005). Development of the body image concern inventory. *Behaviour Research and Therapy*, 43, 229-241.
- 鍋田 恭孝 (2011). 身体醜形障害 なぜ美醜にとらわれてしまうのか 講談社
- Phillips, K. A. (Ed.). (2017). *Body Dysmorphic Disorder: Advances in Research and Clinical Practice*. New York, NY: Oxford University Press.
- Rowe, S. L., Gembeck, M. J. Z., Rudolph, J., & Nesdale, D. (2015). A Longitudinal Study of Rejecting and Autonomy-Restrictive Parenting, Rejection Sensitivity, and Socioemotional Symptoms in Early Adolescents. *Journal of Abnormal Child Psychology*, 43, 1107-1118.
- 総務省統計局 (2021). 令和 2 年国勢調査 総務省統計局 [https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/outline\\_01.pdf](https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/outline_01.pdf) [2022 年 11 月 10 日確認]
- 巢山 晴菜・貝谷 久宣・小川 祐子・小関 俊祐・小関 真実・兼子 唯・伊藤 理紗・横山 仁史・伊藤 大輔・鈴木 伸一 (2014). 本邦における拒絶に対する過敏性の特徴の検討：非定型うつ病における所見. *心身医学*, 54, 422-430.
- Tabachnick, B. G., & Fidell, L. S. (2012). *Using Multivariate Statistics* (6th ed.). Boston, MA: Pearson.
- 田中 勝則・有村 達之・田山 淳 (2011). 日本語版 Body Image Concern Inventory の作成. *心身医学*, 51, 162-169.
- 田中 勝則・田山 淳・有村 達之 (2013). 大学生における身体醜形懸念とアレキシサイミアの関連. *心身医学*, 53, 334-342.

醜形恐怖症の発症に小児期における母親の養育態度が寄与している可能性が指摘されているものの、そのメカニズムは明らかになっていない。本研究の目的は、母親の養育態度(養護と過保護)は醜形懸念と関連し、その関連に拒絶過敏性が介在するかを検討することであった。大学生 428 名を対象に Web 上での質問紙調査を行った。その結果、母親の養護と醜形懸念との間に有意な関連は認められなかったが、母親の過保護と醜形懸念との間に有意な正の関連が認められた。加えて、母親の養護と過保護は拒絶過敏性を介して醜形懸念に関連することが示された。今後は、BDD 臨床群を対象に本研究の結果が再現されるかを検討することが求められる。

キーワード：醜形恐怖症, 醜形懸念, 拒絶過敏性, 母子関係, 養育態度